



議会だより



CONTENTS

9月定例議会の概要	2～3
会派代表質問・一般質問	4～8
常任委員会・分科会審査報告	9～11
議会報告会・意見交換会、 市民と議会の懇談会	12
タブレット端末導入、表紙の写真募集	13
友好都市訪問・行政視察報告	14～15
市民の声、議会の主な動き	16

撮影者 飛田 仁さん

撮影場所 平鹿町醍醐のリンゴ園

まんべんなく色づくようにタマ
回し作業をしているところです。

平成27年度一般会計決算 僅差で認定される

9月定例議会の概要

9月定例議会の録画映像は、横手市ホームページの議会のページでご覧いただけます。
〔市議会トップページ〕→議会広報→市議会中継（録画）→平成28年9月定例会）

9月定例議会のあらまし

9月定例議会は、8月29日から9月23日まで26日間の日程で開催されました。初日の本会議では専決処分3件の報告があり、人権擁護委員の推薦案件7件に同意しました。

提出された議案については、説明、質疑の後3つの常任委員会に付託し、平成27年度一般会計・特別会計決算認定案件は決算特別委員会に、平成28年度一般会計補正予算については一般会計予算特別委員会にそれぞれ付託して審査が行われました。

最終日の本会議では、財政健全化判断比率の報告等2件の報告を受けた後、各委員長から審査の経過と結果の報告が行われました。また、山内消防団の全国大会出場に関する補

正予算案1件が追加提案され、本会議において審査しました。

すべての議案の採決の結果は、平成27年度一般会計・特別会計決算案件25件を認定、市長提出の議案5件、平成28年度補正予算議案4件を原案のとおり可決しました。

よくて農業創生大学事業に関する予算を含む一般会計補正予算を可決

よくて農業創生大学事業については、本年3月定例議会において一部を予備費に組み替える修正案を可決した経緯がありました。

今議会で、旧大雄中学校校舎を再利用し、既存の実験農場と合わせ、2カ所で事業展開する方針が示されました。この関係予算1467万円

平成27年度各会計の決算を審査

8月29日に決算特別委員会の正副委員長選挙が行われ、委員長に佐藤誠洋委員、副委員長に奥山豊和委員が選任されました。

9月12・13日には各常任委員で構成された3つの分科会において、それぞれに付託された案件の審査が行われました。また、21日には、各分科会長報告の後、次の3人の委員が総括質疑を行いました。
● 寿松木孝委員
・ 欠損金について

賛否一覧表 (平成28年9月定例議会)															議決結果															
会派・議員名	公明党		日本共産党		新風の会			さきがけ			市民の会			新政会		みどり塾	蒼生	表決数		議決結果										
	土田百合子	立身万千子	斎藤勇	青山豊	加藤勝義	佐藤誠洋	高橋聖悟	木村清貴	寿松木孝	播磨博一	塩田勉	佐々木喜一	本間利博	菅原正志	阿部正夫			齋藤光司	菅原恵悦		佐々木誠	小野正伸	遠藤忠裕	土田祐輝	佐藤清春	佐藤忠久	高橋和樹	奥山豊和	賛成	反対
①認定第1号	○	●	欠	○	○	●	●	●	●	●	●	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	13	9	認定	
②議案第105号	○	●	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	1	可決
③議案第109号	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	1	可決

・ 佐藤忠久議長は採決に加わりません。 ○:賛成 ●:反対 退:退席 欠:欠席
・ 採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他は全会一致で可決されました

◆請願・陳情の審査結果◆

陳情1件が審査され、次のような結果になりました。(敬称略)

継続審査

・ 福地小学校跡地に地区交流センターを建設することについての陳情
(雄物川地域づくり協議会 会長 佐藤誠 ほか1名)

- ①平成27年度横手市一般会計歳入歳出決算の認定について
- ②平成28年度横手市一般会計補正予算(第2号)
- ③平成28年度横手市一般会計補正予算(第3号)

平成27年度一般会計決算認定に2名の委員が反対討論

● 土田祐輝委員
・ Yばらざー階の図書充実
・ 司書、介護職員等非常勤職員の待遇改善について
● 奥山豊和委員
・ 増田庁舎オーブンリノベーション事業」にみる現在の市政運営について

公共施設の在り方に関する調査特別委員会を設置

この特別委員会は、公共施設の適正管理や有効活用等の課題を調査することを目的に設置されました。
古関直衛氏(大雄)の新任、前澤弘子氏(横手)、七尾喜美代氏(横手)、松井敏博氏(横手)、高橋純一氏(十文字)、狩野和枝氏(雄物川)、清水京子氏(横手)の6名の再任を推薦する案に同意しました。

市議会会議規則を一部改正

本会議や委員会の際、議会が指定するタブレット端末を使用できることを定めました。これにより、会議で使用する資料のペーパーレス化を図り、環境に配慮した議会運営を行っていきます。
(阿部 正夫)

人権擁護委員の推薦

任期満了に伴う人権擁護委員に、
明が十分でないこと」などです。
採決は起立により行い、賛成多数で認定されました。



ココが聞きたい

会派代表質問、一般質問で市政を問う

9月6日は会派代表質問が行われ、3つの会派の代表が日ごりの活動を通して見えてきた課題等について、市長に考えをいただきました。

また、7日、8日に行われた一般質問では6人の議員が登壇し、市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。



会派代表質問より(左から)
市民の会 齋藤 光司議員
新政会 佐藤 清春議員
さきがけ 塩田 勉議員

会派代表質問・・・P4～5
一般質問・・・P6～8

「二次元コード」をスマートフォン
のバーコードリーダーで
読み取るとYouTubeで、
録画中継を
ご覧いただけます。



横浜市議会マスコットキャラクター
しらとり議員

公共温泉施設再編計画について

市民の会 齋藤 光司 議員



●民間譲渡を検討している市有の温泉9施設に対する事業希望者のアイデア募集について問う

問 何を狙ったアイデア募集か。

答 施設の譲渡に関心のある方の有無、また、その意向を把握するために実施したものである。

問 結果として各施設すべてに応募があったか。応募のない施設は廃止になるのか。

答 市外の事業者も含め、6事業者から5施設に対して提案があった。公募の参考とするために活用案を募集したもので、応募のない施設の存廃を目的としない。

問 アイデアの優劣をどのようにして判断するのか。具現化に対してどのような形で担保するのか。

答 アイデアには、現況同様の形態に加え、高齢者福祉施設としての改修案等、新たなサービスの提供など、具体的な活用案があった。今回の試みは、提案内容の優劣を



えがおの丘(雄物川)

決めるものではなく、公募要件を定める参考とするものである。

問 市が譲渡をするにあたって、一番重視するものは何か。

答 現在のサービスを可能な限り残しつつ、地域の元気維持のため、質の高いサービスが安定的に提供され続けることである。

問 温泉施設以外でも利用アイデアがあったか。温泉施設としての継続が第一ではないか。

答 温泉施設以外の提案もあったが、市としては温泉施設としての継続運営を期待している。

財産経営推進計画(FM計画)推進のための基金の創設を

新政会 佐藤 清春 議員



●市長の政治姿勢について

問 市政運営上、最も心がけていることは何か。

答 施策の実現には、信頼感こそがその可否を握っていると感じており、ひた向きな姿勢や弛まぬ努力、前向きなチャレンジ精神が必要不可欠の思いを常に意識しながら、市政運営にあたっている。

問 トップセールスに、市職員に限らず、関連する団体や議員等からも同行させる考えはないか。

答 ある程度幅広い関係者でお願いに行くことは、一歩も二歩も前進しやすい可能性を秘めていると思う。市一丸となったトップセールスを展開していきたい。

●市の財政見通しとFM計画の推進について

問 中長期財政見通しと市民サービスへの影響について伺う。

答 今後の財政見通しは、おおむね計画で想定した範囲内で推移す



平成 28 年 3 月にできた FM 計画の計画書

るものと見込んでいます。将来世代に負担を先送りすることなく、必要な市民サービスを提供していく。

問 財政規模の縮小と、災害や社会情勢の変化等で計画どおり進まないことが予想される。FM計画推進のための基金を創設する考えはないか。

答 FM計画を着実に実行していくためには、施設の長寿命化、統合、複合、解体などにも一定の投資を継続する必要があります。基金創設は財源として有効活用できるものと認識している。

再編から1年半が経過した組織機構の現状は？

さきがけ 塩田 勉 議員



●組織機構改革の検証について

問 総合政策部：事業のアクセラレータとブレーキ役を同じ部署にしたことの評価は。

答 地方創生の時代を生き抜くためには、斬新な企画力と迅速な事業展開が重要。今後も企画と財政が車の両輪となり、事業担当課をけん引していくことが必要だ。

問 まちづくり推進部：所管する範囲が非常に広く、職員数も多い。これを1人の部長で見届け出来ているのか。

答 地域間の相互支援や調整を担う次長を配置し、部長とともに組織マネジメントにあたっている。

問 部が地域の均衡ある発展を推進することで、逆に地域の特徴を消していないか。

答 地域の特性を生かしつつ、地域の均衡ある発展を調整するのが部の役目。地域局との連携により両立させていく。



企業が進出している横手第二工業団地

●市長のマニフェスト達成率について

問 マニフェストに掲げた「企業誘致」「農業の6次産業化・農産物のブランド化」の成果を伺う。

答 企業誘致では、自動車部品製造に関わる企業の誘致が実現した。農業関係では、農産物直売所の売上増、山内になじんが秋田発ジャパンプランド「秋田の逸品」に認定されるなどの成果が出ている。

■その他の質問
・高速交通系について
・FM計画の進め方について

Q 市の危機管理体制を問う

A 訓練や対応を検証し、今後に生かしていく

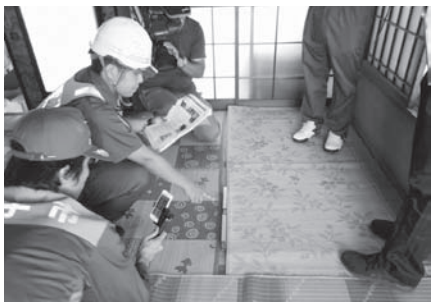
木村 清貴 議員



問 大災害発生時の避難場所・避難所が市民にわかりやすく示されているか。また、孤立する恐れのある集落に対する対応策は。

答 平成29年度にわかりやすいハザードマップを全戸配布し、避難場所の看板と誘導表示板の設置を進める。孤立集落の緊急避難先は集落会館に限らず、被災を免れた近隣の民家への避難も含め、自助・共助の活動を促進していく。備蓄量については現在6千食を確保済み。備蓄途中であり、効率的な配分を想定し、危機管理課と地域局で集中管理している。平成30年度以降は適正管理し、避難所を含めた配置を検討していく。

問 7月4日、県内保育所に対する爆破予告の際、各施設・各地域局の対応がバラバラだった。市長は誰にどのような指示を出したのか。



罹災証明発行に向けた家屋被害判定訓練

答 普段から各施設でさまざまな状況を想定した避難訓練を実施している。児童の安全を確保する方法が異なるかと推測した。結果として対応はさまざまあった。

問 保育現場は子どもたちの命を守るため必死だった。健康福祉部、危機管理課、消防本部、教育委員会、市民にも影響を及ぼす可能性も考え、市民生活部、地域局など、まさに部局横断の体制が必要だったのでは。

答 今回の対応を検証し、指揮系統の確認と適切な初動体制のあり方などに生かしていきたい。

Q 横手ならではの農産品、農産加工品のPR販路拡大をどう進めるのか

A 友好都市など横手を分かってもらえる地でのPR活動なども進めた

佐々木 喜一 議員



問 販促活動はどう進めているのか。

答 仙台や首都圏で販路拡大に取り組んでおり、道の駅十文字は、仙台市で月に一度、旬の野菜、農産加工品の出張販売を行っている。固定客増加や認知度向上につながる、結果として道の駅会員の所得向上に寄与している。

また首都圏では、(株)九州屋で市派遣職員が売り場ニーズを調査し、旬の農産品の通年販売に成果をあげている。(株)サカガミではテ

スト販売などを積極的に受け入れていただき、自らの商品の評価を受けることが生産意欲向上につながっている。板橋区大山商店街の「とれたて村」では、ここに販売所、横手市観光協会の農産品等を販売しており、飲食店への納品など成果に結びついている。市としては、市内中小事



首都圏で市長がトップセールス

問 直売所、朝市の今後は。

答 市では、農産物直売所の方々の意見を伺い、課題解消に対する支援等を行いながら、魅力的な直売所となるよう後押ししていく。朝市は、出店数が減少している傾向にある。しかし、それぞれに歴史ある朝市は、地元を愛され、地元の販わいを創出しており、今後のあり方について地域の皆様のご意見も伺っていきたい。

Q 「地区交流センター化」の実現はいつか

A 来年度から、準備の整ったところから実施していく

菅原 正志 議員



問 ふるさと納税のさらなる推進について

答 申し込みルートが一本であり、多くの方々の目に触れる機会が少なかったこと、ニーズにあったPR不足、特典品提供事業者との連携不足などが考えられる。

問 制度を有効に活用することが横手市の魅力発信、活力に寄与すると考えられる。専従班や女性の視点を生かした取り組みを考えてはどうか。

答 課題解決に向け、ふるさと納税において圧倒的な実績があるポータルサイトを活用し、申し込みルートを拡充した他、情報発信力の強化、民間事業者との連携強化に取り組んでいるところであり、ご提案はその後の一考とさせていただきます。

問 小規模多機能自治の実現に向けた取り組みについて



秋田ふるさと村でふるさと納税をPR

問 地域づくり協議会の今後

答 現状をみて検討する。

問 後はどうなるのか。

答 方向性や機能、事業費のあり方、行政の関わり方など検討している。

問 地域活動の拠点施設の名称を統一した上で、実情に合った地域づくりを進めべきと考えるがどうか。

答 試行を検証し、全市的に統一に進めることにはまだ地区交流センター化を進めたいとの結論に至った。

問 体育施設の今後は

答 既存施設で、スケートボードなど種目を特化した使用を考えてはどうか。

Q 持続可能な農業経営ができるための基本的姿勢は？

A 国の政策が転換しても農業経営できるよう国や県に要望していく

斎藤 勇 議員



問 よくて農業創生大学事業について

答 よくて農業創生大学事業では、新規就農者育成研修に力を注いでいる。2年間の研修で確かな技術を身に付け、将来的には認定農業者として所得420万円を実現する担い手の創出を目標としている。

また、旧大雄中学校校舎の一部を活動拠点として整備し、実験農場機能拡充のほか、農業研修部門、6次産業化の支援等実施する予定。施設の整備方針として、ICTを活用した施設管理の省力化や新技術の導入によりコスト削減を目指すとともに、これまで実験農場が培ってきた管理運営手法のほか、県やJA、大学等



実験農場で農業技術を学ぶ研修生

問 担い手確保や地域リーダーの育成は、横手市の農業振興上欠かせないが、維持管理や研修・人員等、今の進め方はどうなのか伺う。

問 減反廃止とTPPを問う

答 国の農業政策が転換しても農業経営が維持できるような対策を今後も国や県に継続して要望していくほか、さらなる情報収集に努め、市内の農業者が意欲を持って安心して農業に取り組めるよう有効な施策を検討していく。

問 横手市の農業が安心して持続可能な農業経営ができるための農政が、地方公共団体の役割からしても大事な時だ。基本的姿勢について伺う。

答 国の農業政策が転換しても農業経営が維持できるような対策を今後も国や県に継続して要望していくほか、さらなる情報収集に努め、市内の農業者が意欲を持って安心して農業に取り組めるよう有効な施策を検討していく。

決算審査で 住民の福祉向上を願い、 熱い議論



土田百合子 高橋和樹 菅原恵悦 播磨博一
土田祐輝 佐藤誠洋 木村清貴 阿部正夫

◆27年度一般会計決算

問 個人番号カードの交付促進のための取り組みについて。

答 カードを取得するメリットを十分に打ち出せていないため、市として交付促進の取り組みは行っていない。証明書のコンビニ交付など、市民にとって魅力のあるサービスを提示できるように取り組んでいく。

問 新規事業である生活困窮者自立促進支援事業での就労者が少ない。事業委託先に目標などを求めたのか。

答 業務委託先に目標などは求めなかった。今後は、管内の求職者数の実態を、関係機関との連携により、把握しながら事業を進めたい。

問 保健師の充足状況はどうか。

答 横手市は全体的にみると保健師の数は少なくないが、市が実施している事業量からみると不足している。認識している。部内でも保健師の体制について協議しており、地域局には最低2人の配置を継続していきたいと考えている。現在、健診業務など市内3ブロックで業務連携をしており、保健師が現場の業務に従事できる時間を確保していきたい。

◆27年度特別養護老人ホーム特別会計決算

問 現在の空きベッドを解消するための取り組みはどうか。

答 現在約280人の待機者がいると把握している。要介護3の方の待機者が多く、年間約200人の退所者があるため、1年から1年半ほどの待機期間を要している。法改正により要介護1と2の方は入所できなくなったため、在宅の部分と合わせ、第7期の介護計画の中で検討していきたい。

◆28年度一般会計補正予算(第2号) 相模原市の障害者福祉施設での事件を受けて、厚生労働省から保育施設や高齢者施設の防犯強化への助成が行われると聞かすが、市の取り組みはどうか。

答 詳細な内容はまだ届いていないが、現在各施設で検討中である。今後必要な措置を取っていく。

(高橋 和樹)



健康の駅を視察し、らくらく体操を体験

問 健康の駅事業は全国的に大変評価が高い事業だが、この事業による効果をどのように分析しているのか。

答 全国の健康の駅推進機構の総会でも同様の指摘があった。事業効果を医療費や介護保険費の削減など、具体的な数字として出すことの難しさに悩んでいる。効果が出ている手ごたえはあるので、国保のデータへルス計画の中などで検証をしていきたい。

◆27年度介護保険特別会計決算

問 特別養護老人ホームへの入所者の需要に対し、供給が足りていないのではないか。

答 現在約280人の待機者がいると把握している。要介護3の方の待機者が多く、年間約200人の退所者があるため、1年から1年半ほどの待機期間を要している。法改正により要介護1と2の方は入所できなくなったため、在宅の部分と合わせ、第7期の介護計画の中で検討していきたい。

◆28年度一般会計補正予算(第2号) 相模原市の障害者福祉施設での事件を受けて、厚生労働省から保育施設や高齢者施設の防犯強化への助成が行われると聞かすが、市の取り組みはどうか。

答 詳細な内容はまだ届いていないが、現在各施設で検討中である。今後必要な措置を取っていく。

(高橋 和樹)

Q 公文書館設置に向けた具体的な取り組みは

A 旧鳳中学校の校舎を再利用する



土田 百合子 議員



問 公文書館設置に向けた取り組みについて伺う。

答 活用する施設の検討にあたっては、整備にかかる費用や収納できる面積、利便性など考慮しながら統合後に空き校舎となっている旧鳳中学校の利活用を中心に現在検討を進めている。また、施設整備の検討と並行し、今年度は保存期間が満了した文書の選別作業や整理にも取りかかっている。

問 赤坂総合公園地山土砂を(仮称)横手北スマートインターチェンジ事業への盛土材として使用する予定である。国道107号線「朝日が丘入口付近」に再び水害発生は恐れはないか。

答 地山を掘削後の排水対策については、ネクスコ東日本とともに十分な対策を講じて工事を進めていく。

問 県道大曲横手線(横手北中学校付近)の信号機設置について伺う。



旧鳳中学校校舎

答 秋田県交通安全実施計画では、平成28年度の信号機設置数は県全体で6基となっている。この計画の中に入れていただく要望は、各団体と連携して取り組んでいく。

■その他の質問

1 民生児童委員への感謝状制度創設について

2 赤坂総合公園グランド・ゴルフ場の整備について

①夏の暑さや雷雨などから身体を守る屋根及びトイレ付き休憩所の設置

②御岳コース東屋付近へのトイレの設置

Q 子ども・子育て新制度下で、横手市が留意すべき点は何か？

A 保育所等の運営チェックや保育内容の助言・指導を強化していく



立身 万千子 議員



●昨年4月から実施された新制度が横手市の子育て支援体制に及ぼす影響は

問 地域の保育所や認定こども園などの状況はどうか。

答 市が保育の必要性を判断する認定申請手続きが必須なことや、幼稚園が保育認定の定員を設けた認定こども園になったことは変化だが、保育料の支払い方法などは今までとほぼ同様。

問 学童保育の状況は。

答 市内全小学校区に30カ所、約1100人が利用中。今年度は夏休みから2カ所で5・6年生の受入れをモデル事業として開始した。

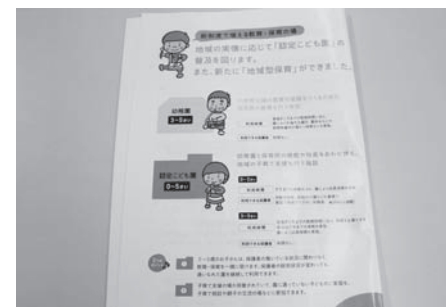
問 ファミリー・サポート・センター事業の状況は。

答 託児などの支援を受けたい人と、援助したい人のネットワークを作り事業を実施している。今年度からファミリー・サポート・センターのアドバイザーに携帯電話を貸与し、緊急対応

できる体制を整えた。

問 保育所などの運営について、国が「多様な事業主体」を推奨する下で、横手市が留意すべきことは。

答 公立保育所の統合や民営化を進める上で事業主体は、経営基盤や保育の質が担保されていることも重要である。市では、栄養士や税理士の同行を伴う指導監査を実施している。さらに国のモデル事業として教育・保育アドバイザーと保育専門員が幼保施設の訪問や研修会を計画するなど保育実践に関する質の向上も目指していく。



市内の全幼稚園が認定こども園に

産業建設常任委員会

青山 豊 小野正伸 齋藤 勇 佐々木喜一
齋藤光司 加藤勝義 佐々木 誠 佐藤清春

よこて農業創生大学事業、 本格始動へ

◆27年度一般会計決算

問 「食と農からのまちづくり事業」の今後の方向性について。

答 啓蒙、普及活動については、新たな視点での展開を検討している。達成度が把握しづらい面があるため、何らかの具体的指標を見出せないかも検討している。息の長い活動が必要だが、地産地消の向上を目指し、具体的な取り組みを展開する段階に入ったと考えている。

問 農業祭を開催したが、今後は他の産業をも巻き込んだ「産業祭」に発展させることはできないか。

答 農業に問題意識を持つ方々が一堂に会してイベントを行うことはそれなりの意義があると思う。そこを主体にしながら、将来的には他の分野への広がりが望めればいいと思っている。

問 大雄ホップ等特産品関連事業に関して、約1400万円の欠損が生じたわけだが、担当部署としてはどう思う思いでいるのか。

答 できるだけ換価できるように努めてきたが、結果的に差額が生じてしまったことについては、本当に申

し訳なく思っている。ただ、時間がない中で一生懸命対応してきたことは理解してほしい。

問 道路橋梁定期点検の結果と今後の対応について。

答 緊急に措置しなければならぬ橋梁はなかった。しかし、早期に措置が必要となる橋梁が4橋あった。このうち1橋は来年度に、3橋は5年以内に対策を講じる。

問 「雪国よこて安全安心住宅普及促進事業」で耐震系の実績が1件しかなかったのが気になる。どう分析しているのか。

答 いかに住民の皆さんの当事者意識を高めるかが課題だと捉えている。来年度に向けて補助限度額の見直しも検討したい。

◆27年度集落排水事業特別会計決算
問 人口減少に伴う今後の事業に対する考え方について。

答 将来的に施設の維持は困難になると認識している。そういう中で集落排水を継続するのか、浄化槽に切り替えるのかという判断が出てくるのではないかと考えている。

◆28年度一般会計補正予算(第2号)

問 「よこて農業創生大学事業」について、今後のスケジュールは?

答 今年度は基本設計までを予定している。29年度に実施設計と旧大雄中校舎の一部及びプールの解体を行い、30年度で施設を建設して、31年度からの稼働を考えている。

問 もっと早急に進めるべきではないか。

答 そういう気持ちは持っている。前倒しで整備できるものはないか模索していきたい。(青山 豊)



実験農場内に建設中の新管理棟を視察

総務文教常任委員会

高橋聖悟 立身万千子 菅原正志 奥山豊和
本間利博 寿松木 孝 佐藤忠久 遠藤忠裕
塩田 勉

財政から教育まで 多岐にわたった決算審査

◆27年度一般会計・特別会計決算

問 ふるさと納税PR事業で、業務代行者への手数料・返礼品の取り扱いをしている事業者や生産者に届いた手取り金額はどのくらいなのか。

答 業務代行者には手数料として約550万円、送料約200万円、特典提供者には約1835万円が支払われている。

問 コミュニティFM中継局を増やし、難聴箇所の解消を図ったが、不感地帯はないか。

答 27年度は、植田地区、金沢地区を整備したが、依然としてそれ以外の5地区で難聴状態を確認している。中継局を増やせば解消するわけではなく、それにより干渉地域も発生するので、既存の設備を活用しながら解消していきたい。アンテナの種類変更も含め、各所に相談しつつ進めていく。

問 スクールバス運行事業について、民間委託など今後の方向性は。

答 民間委託については、優良な運転手の確保、安全運行のノウハウを持っているなどメリットがあるが、経費だけで考えるとかなり増しにな

るので熟慮しなければならない。学校統合等の機会を捉えて、一部民間委託ということも一つの方法と考えている。

問 財産区の今後の方向性について。

答 財産区は特別地方公共団体であり、区域内財産の運用管理など、権能が限定された部分でこれまで継続が認められ、合併後も継続している。当該財産の活用については、受益の範囲がその地域内に限られるので各財産区の特徴を生かしながら、地域内の発展のためになるよう、管理会等関係各所と協議、検討していきたい。

問 公共施設の使用料のあり方は。

答 財産経営推進計画の一環で、人件費も含めたトータルのコストを参酌した上で使用料のあり方を考えていかなければならない。施設によっては料金設定からその価値を見られるということもあるので、安ければいいという話でもない。合併前から引き継いできているものと未だバラつきがあるので再精査しており、適正な使用料の水準についても検討していく。



消防本部の通信指令室を視察

※一般会計の決算認定は、委員より採決をしない動議が出され、当分科会においては決算認定の可否の判断がなのまま決算特別委員会へ分科会の報告をした。

◆28年度一般会計補正予算(第2号)
問 あきたっ子グローバルびじゅん委託金の使途について。

答 増田、睦合小学校において国際理解教室を開催するための経費である。(高橋 聖悟)

18会場で開催 意見交換会を開催

議会の活動が見えない等々、市民の皆様からのご指摘やご意見をいただき、議会基本条例のもと、市民の皆様との距離を縮めようとの思いで始められた議会報告会も、5回目の開催となりました。今年度も、各地区会議との共催により、7月19日から29日の11日間、全市18カ所を会場に開催されました。

また、今回から、これまでの「報告会」を中心とした内容から、市民の皆様との「意見交換」に重点をおいて開催しました。さらに、必要に応じて議員個々の考えている事や意見も発言できるように改めました。各会場においては、市民の皆様からの活発なご意見やご提言があり、充実した中身のある会になりました。

議会においては、皆様からいただいたご意見やアンケートをま



大雄交流研修館ふれあいホールで行われた「議会報告会・意見交換会」

め、議会に関するものは全議員で情報を共有しています。市側に回答を求めるものについては検討いただいております。また、次回、皆様に公表したいと思っております。

(遠藤 忠裕)

「市民と議会の懇談会」で 語るべ！ 横手の未来を

広報広聴委員会広聴分科会では、市民の皆様のご要望に応じてテーマを決め、議会報告会とは別の形で市民の皆様と議会がざっくばらんにお話できる会を設けております。

横手の未来について、あんなこと、や、こんなことをじっくり語り合ってみませんか。

懇談会開催をご希望の方は、次の内容によりお申し込みください。

対象	おおむね10人以上の参加が可能な横手市内の団体やグループ等	申込み	所定の申込書にテーマや希望日時等記入の上、議会事務局に提出してください。用紙は、市議会ホームページ（ページ番号00021060）からダウンロードできますが、ご希望の方には用紙をお送りします。
時間	1時間半〜2時間程度	問合せ	市議会事務局 ☎ 32-2535
場所等	日程や場所は、お申し込みの団体とご相談の上、決定します。		
テーマ	「市政に関すること」「市議会に関すること」のいずれかに該当するテーマでお申し込みください。		

お気軽にお声かけくださいね！



横手市議会マスコットキャラクター しらとり議員

タブレット端末導入に向け、始動！



使用方法を学ぶ議員

横手市議会では、膨大な会議資料のペーパーレス化、情報伝達の迅速化などを図るため、昨年12月9日に設置されたタブレット端末導入推進会議において、話し合いを進めてきました。

このたび全議員にタブレット端末が貸与されることとなり、9月21日に議員そろって使用方法を学びました。市議会では、12月定例議会からの本格運用に向け、その第一歩を踏み出したところです。

表紙の写真を大募集！

あなたの写真が議会だよりの表紙に！



横手市内で撮影した四季折々の行事や風景など、「横手市議会だより」の表紙を飾る写真を募集中です。

あなたの一押しの写真をぜひご応募ください。お待ちしております！！

◆募集内容

- 1号につき1人1作品応募でき、次のいずれにも当てはまるものです。
- ①応募者本人が、市内において発行号に近い時期に撮影した未発表のもの。組み写真、合成写真は不可。
- ②2～4MBのデジタルデータ（JPEG形式）で提供できること。
- ③人物が特定できる場合は、被写体の承諾を受けたもの。被写体が中学生以下の場合は保護者の承諾を受けてください。イベント等で多数の被写体が撮影されている場合は、個人特定性の低い風景写真とみなし、この限りではありません。
- ④個人の所有物を被写体とした場合は、所有者の承諾を受けたもの。

◆応募資格

市内在住、在勤または在学の方。

◆応募方法

市議会ホームページ（ページ番 000021395）の応募フォームからご応募ください。このほか、横手市議会事務局へ持参または郵送したものも受け付けます。応募用紙は、市議会ホームページから入手してください。

◆平成29年1月15日号の締切

平成28年12月16日（金）必着

◆注意事項

- ①応募写真に関する著作権、肖像権等の問題が発生した場合、その責任及び解決はすべて応募者に帰属するものとします。
- ②応募写真は、無償で横手市議会が使用することに許諾したものとします。
- ③応募写真の著作権は撮影者本人に帰属します。ただし、応募してから6か月は、他媒体での発表を行わないでください。
- ④採用された写真は、必要によりトリミング処理等を行うことがあります。
- ⑤記念品等はありません。



見て、聞いて、学んだこと

＝友好都市訪問と行政視察報告＝

7月11～13日に総務文教常任委員会が、8月3～4日には広報広聴委員会広報分科会が行政視察を行い、先進的な取り組みを学んできました。

また、8月上旬と下旬に友好都市である神奈川県厚木市と茨城県那珂市をそれぞれ訪問し、両市議会との絆を確認するとともに親睦を深めました。

14ページでは友好都市訪問の様子を、15ページでは行政視察の様子をご紹介します。

那珂市



ひまわりフェスティバルで横手市をPR

8月27～28日の日程で、横手市議会の7名が那珂市を訪問させていただきました。

旧横手城主の戸村氏が現在の那珂市から移ってきたという歴史的なつながりから、平成16年10月に友好都市締結を行い、横手市議会では平成23年から那珂市訪問を行っています。

当市の職員も参加し、横手市の物産品や観光のPRをしている「ひまわりフェスティバル」や、横手市産ホップを原料とするビールを製造している木内酒造（資）額田醸造所で、製造工程の視察を行いました。「ハートの形のまち」の名の通り、那珂市のハートある温かいおもてなしに感激した2日間でした。（高橋 和樹）

厚木市



厚木市議会を表敬訪問

8月6～7日、70回目の節目を迎える「鮎まつり」で大賑わいの中、友好都市である厚木市を訪問。2月の「かまくら」行事の際、横手にお越しくくださった方々を中心に温かいおもてなしをいただきました。交流会の会場には、同じく厚木市と友好関係を結んでいる北海道網走市議会議長の姿が。今後、厚木を介して網走との交流も深めていければなと思っています。翌朝は市民朝市にお邪魔し、横手産のすいかを試食させていただきました。多くのボランティアの皆さんが、早朝から清掃活動を行っている姿を拝見し、「鮎まつり」が市民に愛される厚木の夏の風物詩であることを実感しました。（奥山 豊和）



自転車リレー、厚木市役所へゴール

友好都市である厚木市からこれまで4回、厚木市職員らのランニング愛好会「あつぎ昼走会」によるリレーマラソンで、横手市を訪問いただきました。しかしながら、横手市ではこのようなりレー形式で厚木市を訪問することがなかったことから、今回自転車4台（議員2名、職員2名）、サポートカー2台（職員2名）でリレーしながら約600キロの道のりを8月4日から3日間かけて走り、タスキをつないで届けました。

厚木市の最大のイベント、鮎まつりの開会に合わせて訪問し、今後ますます両市の交流が活発になることを約束してきました。（佐藤 誠洋）

先進事例を学びに!!

7月11～13日 総務文教常任委員会

当委員会は、「移住定住対策」「マンガの収集等及びその施設の運営」「小中一貫校の取り組み」などについて、兵庫県と京都府で調査研究を行いました。

移住定住対策については、住みたい田舎ランキング1位の朝来市の取り組みを調査しましたが、その施策を進める上で、まずは地の利を生かした体験や短期滞在から始め、次に市の施策、例えば、空き家対策、子育て支援、婚活までを一体的に取り組むという手法で進行させており、特設の担当課も作っていることが特徴的でした。

マンガの収集やその施設の運営については、人材育成やコンセプトをしっかりとすることが必要とのことでした。

小中一貫校の取り組みについては、中一ギャップ解消や学力向上をはじめ、社会変化や心身の発達



小中一貫校である東山泉小中学校7年生の授業風景

の早期化に対応し、個性能力を効率的に引き出す取り組みとすることで、「小中連携主任」を配置し、前期5年、後期4年制というスタイルで教育を実施していました。横手では未知の世界ですが、教育行政上、何が効果的なのか見極める上で、京都市東山泉小の施設分離型小中一貫教育は、今後の教育行政のあり方の参考となるものでした。（高橋 聖悟）

新しい取り組みを視野に研修

8月3～4日 広報広聴委員会広報分科会

広報分科会委員6人は、JR北上線を利用して、岩手県北上市と埼玉県所沢市に視察研修に行きました。

岩手県北上市での研修事項は、①写真公募の運用状況と市民の反響、②表紙写真の選定状況、③紙面づくりで工夫している点、④議会だよりの配布方法、⑤議会での委員会の位置づけ、⑥市民の意見を引き出す仕組み等について説明を受け、意見交換をしました。

埼玉県所沢市では、①フェイスブックを活用した情報発信について、②フェイスブックの管理と運用、③掲載基準、④議会だよりの編集等の説明を受け、意見交換をしました。

市民に愛される紙面づくりという方向性は横手市と同じで、両市とも工夫を凝らした広報活動をしていました。所沢市のフェイスブックについては、横手市の広報



北上市議会での広報の取り組みを学ぶ

分科会においても「多くの市民の皆さんに、議会を身近に感じてもらえる情報発信手段として取り組みたい」と、熱のこもった意見のやりとりがありました。

今回の両市への視察研修での結果を横手市議会だよりの編集、紙面づくりに生かし、さらなる情報発信に努めたいと思います。（佐々木 誠）

市民の声

再挑戦新発見

平鹿地域

柿崎 昇さん(66歳)



国語が不得意だったのに、よくぞ俳句会に参加したものだ。それにも増して苦手だったのが体育の持久走だが、同じ時期に山登りを始めた。いずれも退職後に知人に誘われてやりだしたものだから、人並みにはできない。この歳になって始めたもので、という免罪符を使わせて

もらっているが、やってみてそれなりの手応えを感じている。
言葉を巧みに操る短文の世界、そこは繊細で奥深く、しばしば県南独特の風物詩が詠み込まれる。息を切らして山に登り、頂上から見渡す奥羽山系や意外に狭い横手盆地、そこであくせくと暮らしていたことに気づいた。
ご同輩諸兄、一線を退いたら思い切つてそれまでとは違う何かに挑戦してみよう。今まで知らなかった横手やそこに住む人々、そして自分自身にも出会えるはずだ。

編集後記

議会でのペーパーレス化(紙の削減)に向けてタブレット端末の導入がすでにスタートしました。これまでの情報伝達は紙による郵送が主な手段でしたが、これからは、タブレットを活用した電子メールの方法となります。すっかり屋の私にとっては、毎日タブレットから目が離せない状況で、慣れるまで時間がかかりそうです。タブレットを活用して市民の皆様様に議会の様子を発信できる日も遠くはないと思います。

これからも、より開かれた議会を目指し、努力してまいります。
(土田 百合子)

◆広報広聴委員会広報分科会◆

- | | |
|-------|--------|
| 分科会長 | 佐々木 誠 |
| 副分科会長 | 奥山 豊和 |
| 委員 | 高橋 聖悟 |
| | 土田 百合子 |
| | 高橋 和樹 |
| | 佐藤 誠洋 |
| | 立身 万千子 |
| | 阿部 正夫 |

議会の主な動き

平成28年7月～9月

7月

- 1日 広報分科会
- 4日 広報分科会
- 5日 広報分科会、FM議会番組収録
- 7日 消防議員連盟研修会
- 11日 総務文教常任委員会行政視察
(～13日 兵庫県朝来市、京都府京都市)
- 14日 タブレット端末導入推進会議
- 15日 産業建設常任委員会協議会、全員協議会、議員研修会
- 19日 秋田県市議会議長会定例会(～20日 にかほ市)
議会報告会・意見交換会(～29日)
全員協議会、広報広聴委員会
- 25日 全国市議会議長会役員会(東京都)
- 26日 秋田県市議会議長会要望活動・研修視察
(～29日 東京都、島根県大田市)

8月

- 2日 FM議会番組収録
- 3日 広報分科会視察研修
(～4日 岩手県北上市・埼玉県所沢市)
- 6日 友好都市訪問(～7日 神奈川県厚木市)
- 17日 秋田県市議会議長会中央行動(～18日 東京都)
- 19日 正副委員長会議、議会運営委員会 全員協議会
スマートIC 整備促進議員連盟説明会
会派代表者会議、広聴分科会、FM議会番組収録
- 22日 厚生常任委員会協議会
- 23日 広聴分科会、森林・林業・林産業活性化推進議員連盟研修会、果樹振興議員連盟研修会
議会改革推進会議
- 25日 市民と議会の懇談会
- 26日 友好都市訪問(～28日 茨城県那珂市)
- 29日 市議会9月定例議会(～9月23日)

9月

- 1日 広報分科会、FM議会番組収録
- 2日 FM議会番組収録
- 6日 タブレット端末導入推進会議
- 7日 議会運営委員会、広報広聴委員会、広聴分科会
会派代表者会議
- 8日 産業建設常任委員会協議会
- 13日 厚生常任委員会協議会、総務文教常任委員会協議会
- 14日 正副委員長会議、議会運営委員会、広報分科会
- 20日 全員協議会
- 21日 議員懇談会、公共施設の在り方に関する調査特別委員会
- 23日 FM議会番組収録
- 25日 広報分科会
- 28日 広報分科会

